

授業の始まりのチャイムが鳴ったからといって、子どもは授業に向かう気持ちになるとは限りません。そこで、導入は、子どもを道徳授業に向かわせ、学習への興味関心を高める役割があります。それは、教科によって異なり、これからの授業が、国語や社会などではなく道徳なのだという特長のある導入が必要になります。つまり、他の教科とは異なった道徳ならではの導入になるようにするということです。

では、他の教科と異なった道徳ならではの特長を生かした導入とは、どのようなものでしょう。

第一に、道徳授業は、お話や写真などを教材としていますので、教材の内容を取り上げます。「今日は、おおかみさんが出てきますよ」「この写真はどこの写真でしょう」などとして教材の内容の焦点化を図った導入があります。

第二に、道徳教材は、生活の様子を扱っていることが多いので、児童生徒が体験したり見聞きしたりしたことと重ね合わせて、「スーパーの前に自転車がたくさん置いてあって、歩きづらくなっている人を見かけたことがありますか」「下校のときに、見守り隊の人、何人に出会いますか」など、教材の内容と重なることを想起させます。

第三に、展開前段の登場人物の体験と重ね合わせて、「親切にしてもらったことがありますか」「練習を続けて目標を達成したことがありますか」など、児童生徒の体験を想起させます。

第四に、道徳は道徳的価値について考えさせますので、「今日は友情について考えましょう」「トルコという国を知っていますか。今日は、日本とトルコとのつながりについて考えてみましょう」として、授業の中心となる道徳的価値を示します。

第五に、児童生徒がこれまでもっているイメージを出させます。「真面目な人とはどのような人でしょう」「希望を色で例えるとどんな色でしょう」など、既成のイメージを出させておきます。

第六に、問題解決的なテーマを示します。「友達が困っているとき、どのように考えるとよいでしょう」「家族の一人として、どのように考えますか」など、この時間で考えるめあてをはっきりとさせておきます。

このような中から、教材の内容や児童生徒の実態から、子どもが興味関心をもってスムーズに授業に入るものを選択しますが、もう一つの必要性として、教材の内容に入る前に、児童生徒を同じスタートラインに立たせるということがあります。

その一つが、経験のスタートラインです。例えば、スーパーの前に自転車がたくさん置いてあることを見たことがある子もいればそうでない子もいると、見たことがない子は、なかなかイメージができない場合もあります。すると、教材の内容に関わる答えに差が生じかねません。そこで、導入で、スーパーの前の多くの自転車が置かれている写真を見せるなどして、その経験差を同じにします。

もう一つが、価値観のスタートラインです。スーパーの前に自転車が置かれていることは、よくあることで仕方がない面もあります。そこで、自転車が乱雑に置かれていて、通路が通りにくくなっているような写真を見せることで、「これはよくないな」という同じ価値観から出発することができます。

このように、導入には、児童生徒の興味関心を高める役割、経験や価値観のスタートラインを同じにする役割があります。その導入を始める際に、二つポイントがあります。

まず、「導入の導入」を考えてみることです。チャイムが鳴って、すぐに「今日はおおかみさんがでてきますよ」と言っても、子どもはぴんと来ないでしょう。それを言う前に、どのような状況で、どんなおおかみが出てくるのか、また、どうしてテーマを考えないといけないのかなど、導入が出てくる必然性、前提を説明した方がよいと思われます。

次に、導入で話したことは、後の授業の中で問いにすることです。「今日は、おおかみさんができますよ」と言ったら、授業のどこかで「おおかみさんは、どんなおおかみさんから、どんなおおかみさん変わったでしょう」などとして問いを立てます。特に、導入で、めあてを立てたら、どこかで問いを立てないと、めあてとしての機能が発揮できなくなります。このようにすれば、導入から始まる授業に一貫性ができ、児童生徒も先生も、この 1 時間の授業のねらいがしっかりと掴むことが期待できます。